

# 計画高水流量、洪水調節流量について

令和7年度静岡県河川審議会  
【参考資料】

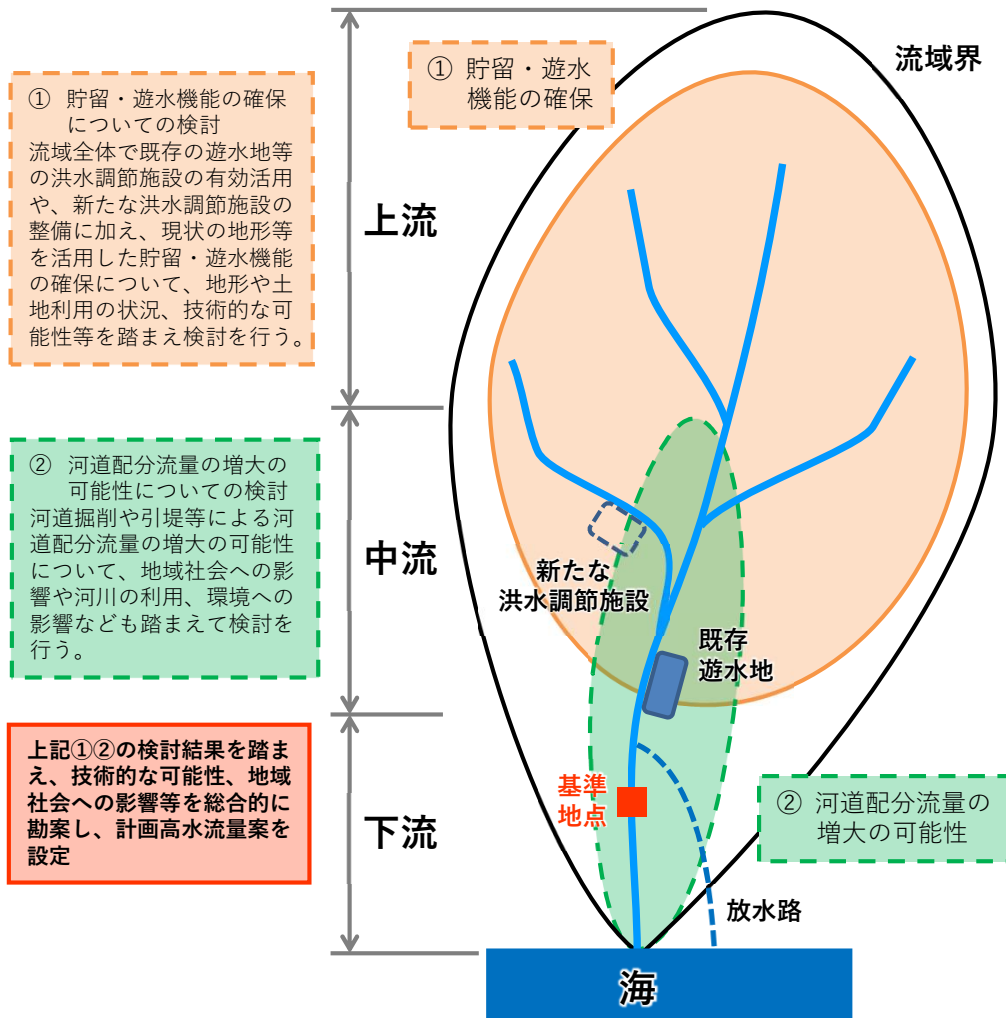
## 計画高水流量（河道配分流量）、洪水調節流量の一般的な考え方

計画高水流量（河道配分流量）、洪水調節流量の検討、設定にあたっては、流域治水の視点も踏まえ、流域全体を俯瞰した貯留・遊水機能の確保など幅広く検討を実施するとともに、河道配分流量の増大の可能性の検討も図り、技術的な可能性、地域社会への影響等を総合的に勘案し、計画高水流量を設定する。

$$\text{基本高水のピーク流量} = \text{計画高水流量} + \text{洪水調節流量}$$

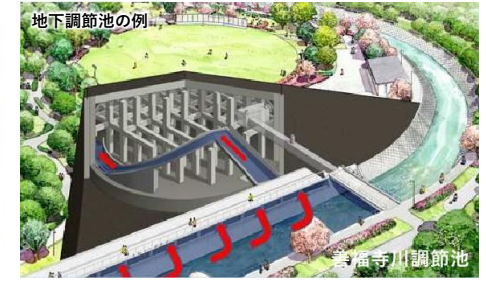
(河道配分流量)

## 計画高水流量（河道配分流量）、洪水調節流量の考え方



## 洪水調節流量の検討

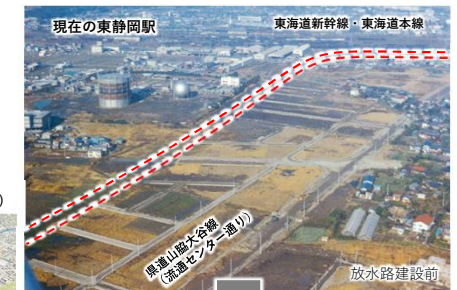
- 河川の**中流部に遊水地（洪水調節施設）を設置**して**下流部の洪水を低減**させるとともに、上流部の流出量の増大による治水への影響を吸収できる。
- 広大な土地を必要とし、用地費が大きくなるほか、土地利用上適地が限定される。
- 洪水調節流量の設定に当たっては、流域内における貯留・遊水機能を評価し、新たな施設整備の可能性を検討する必要がある。



出典：国土交通省ウェブサイト  
第7回浸水被害軽減に向けた地下空間活用勉強会

## 放水路の検討

- 河道改修には、幅幅・掘削等の河道断面の拡大の他にも、土地利用等の制約によって、**放水路、地下河川等の方法**があり、流域の状況・経済性等を勘案する必要がある。



出典：国土交通省ウェブサイト  
第7回浸水被害軽減に向けた地下空間活用勉強会

放水路の例（大谷川放水路（静岡市））